

町小だより

令和7年
2月26日
No. 694
御免町小学校

正解とは何か

校長 相澤 祐助

$1 + 1 = 2$ ・・・「正解」。 $2 \times 5 = 10$ ・・・「正解」。鎌倉幕府が成立したのはいつ？
1192年・・・「正解?」。実は間違いのようで、1192年は源頼朝が征夷大将軍になった年で、その前の1185年にはすでに鎌倉幕府ができていたらしいのです。今現在の正解は、1185年のようです。

学校は、特に小学校、中学校の義務教育期間は、正しい答えを求める場面が多いことは確かです。算数の計算で $1 + 1 = 10$ ・・・などということはありません。 $1 + 1 =$ 田ともなればクイズです。私たちが普段使っている10進法の世界ではその通りですが、二進法の世界（1と0しかない世界）では $1 + 1 = 10$ となり「正解」です。

正しい知識を得る教育段階では正解は存在します。基礎基本を学ぶということは「生きる力」のベースとなります。テストで定着しているかを測り、着実に身に付けさせようとするのが義務教育でしょう。

私の好きな曲に、**RADWIMPS**:ラッドウィンプスというバンドが歌う**正解**という曲があります。この曲の歌詞を掲載することは、著作権法に抵触するのでできませんが、「学ぶ」ということに強烈なメッセージを伝えてくれます。

学校では正解を学び、正解を求められ、正解を理解して評価されます。ただそれだけの学びの場なら、「用はない」と言うのです。学校では、仲間と出会い、楽しい時間を過ごします。しかし、仲間とぶつかり合い、時にはけんかやトラブルに発展することもあります。その中で、どう仲直りするのかわ、どうやってお互いの距離を縮めるのかわ、どうしたら仲間の良さを見つけ出すのかわ、ここにこそ学校の価値があると歌っているのです。そういった行動には「正解」はありません。「正解」ではないかと自分で考えて、行動を選択し、実際に行動し、その結果が教えてくれるのです。何が正解か不正解かを。つまり、仲間とともに行動する中でこそ、新たな気づきが生まれ、自分を成長させます。ここに学校の学びの良さ、真価があるものと私は考えます。

先日、3年1組の音楽の授業を参観しました。というより、歌と合奏を聴いてくださいというものでした。「帰り道」と「パフ」の2曲です。歌声がのびやかで、声量があり、歌声が響き合っていました。リコーダーや鍵盤ハーモニカ、打楽器が見事に調和し、聴いていてさわやかな心地になったのです。担任の石山先生が「9月よりもうまくなっている」と評価してくれました。すると、「だって、みんなの声や音を聴いているもの」という答えが返ってきました。仲間の声で自分を成長させているという考え、まさにこれこそが、学びの場、学校で生まれる「正解」の一つではないでしょうか。

さあ、いよいよ3月。子どもたちにとってどんな正解が待っているのか楽しみです。